肢病専だより

宮城県特別支援教育研究会
肢体不自由病弱虚弱教育専門部
令和元年度９月１９日発行　第１号　（事務局：宮城県立船岡支援学校）

肢病専部長　菅原幸弘（船岡支援学校長）

今年の４月に船岡支援学校に赴任いたしました菅原幸弘と申します。宮城県特別支援教育研究会肢体不自由病弱虚弱教育専門部（肢病専）の部長の任を拝命いたしました。極めて非力な者ですが，会員各位の研究活動のために努めて参りたいと存じますので，どうぞ宜しくお願いいたします。

さて，去る６月２１日（金）に本校において令和元年度肢病専総会が開催され，公務ご多用の折にもかかわらず，多数ご参加頂き，有り難うございました。しかし，残念ながらご欠席の先生方も多数おられましたので，報告方々，挨拶用原稿の一部を転載したいと思います。

＊＊

…さて，学校の紹介は以上として，本題に入りたいと思います。

特別支援教育は,私が教員になった３０数年前に比べるとですが,環境整備と啓蒙が格段に進み,近年は，障害者差別解消法の合理的配慮が社会的に大きく取り上げられるようにもなりました。その結果，教育現場では，箱物・機材などのいわゆるハード面の整備は進歩が見られるようになったように感じます。

しかし一方，ソフト面はというと，正直，新しい指導要領が出るたびに，それを理解するために，研究活動をやって，共通理解を図って，実践にまで持って行くといったことの繰り返しで，追いついていくのが精一杯というのが実情ではないでしょうか。

まして,将来の社会に生きる子供たちを育成する立場にある私たち教師が,１００年先はおろか,１０年先を見据えた授業ができているかというと，確実に「まだまだ」と言わざるを得ません。

余談ですが，私は高校の社会科教員で，若い時から社会科教育研究会の公民部会にできるだけ顔を出して，先輩の授業を見せてもらったり，専門的な話を聞いたりして，とても自分の授業改善に役立った記憶があります。というのは，私のような政治・経済専門の教員は学校に一人いるかいないかだったので,「独善」に陥らないよう常に気をつけなければならなかったからです。

本会は，勿論高校の教科研究会とは性格が違いますが，官製ではない自主的な研究会という意味では共通しています。こういった教員の自主的な研修会の存在意義というのは，単なる伝達講習とは違って，学校や校種の枠を越えて指導上の悩みを相談したり，教材開発のヒントを発見できたりするという点にあると思います。つまり，主体的に授業改善に活用しやすい実用性の高さに存在意義があると思うのです。

本専門部の研修会が，先生方の指導上の悩みを解決したり，教材開発のヒントが見つかったりする「広場，井戸端，銭湯」のようなコミュニティーになることを願って，開会の挨拶と致します。

＊＊

それでは令和元年度，肢病専の研究活動，どうぞよろしくお願いします。

令和元年度　宮城県特別支援教育研究会・肢体不自由病弱虚弱教育専門部総会

令和元年６月２１日（金），宮城県立船岡支援学校会議室を会場に，今年度の専門部総会が行われました。当日は，校務御多用の中，県内各地より４４名の会員の皆様にお集まりいただきました。議題は全て承認され，今年度の活動を始めることとなりました。

今年度の肢病専部テーマは，引き続き「一人一人が生きる肢体不自由・病弱虚弱教育の在り方を求めて」となりました。

事務局は船岡支援学校で固定となります。

会計予算についてですが，機関誌「あゆみ」の発行をホームページでの公開とすることになり，機関誌発行費が減額されています。また，会場が船岡支援学校に固定されたので，会場費もかからなくなり，繰越金が多くなっています。前年度までの「研究会費」を「研究・研修費」と改め，予算を多く配分しました。

規定改正が一部改訂され，幹事は各地区ブロックから１名以上選出となりました。任期についても２年から原則１年に変更となりました。

「肢病専の手引き」は，船岡支援学校のホームページからもダウンロード可能です。ご活用ください。肢病専部へのご意見・ご要望は，下記の事務局アドレスまでお願いいたします。

funayou-kyomu@od.myswan.ed.jp

【会員研修Ａ＜実技研修＞】

日時：令和元年 6 月 21 日（金）
場所：宮城県立船岡支援学校 体育館

テーマ：「肢体不自由のある子供の体育～拓桃スポーツ集の紹介を通して～」

講　師：宮城県立拓桃支援学校　教諭　吉成知之先生

会員研修Ａは，教員の指導力アップをねらい，今年度から実技研修を設定することとなりました。実技研修としての第１回目は，肢体不自由や病弱・身体虚弱の児童生徒の担任になった時，多くの教員が戸惑ってしまう「体育の指導」をテーマとしました。当日は，３６名の参加者がありました。

研修では，まず始めに吉成先生から，「肢体不自由のある児童生徒は体育や行事において参加できなかったり見学を余儀なくされたりすることが少なくないが，子供たちの身体を動かしたいという思いはとても強いことに気付かされる。子供たちの身体を動かしたいという欲求に応える体育の授業を目

指している。」ことが話されました。そのためには，「障害特性や興味関心などをもとにスポーツをアレンジする（スポーツの特性を生かしながら児童生徒の実態に合わせてルールを変える）ことが必要である。」と，アレンジの観点についてお話をいただきました。

また，「体育とは運動やスポーツを通して何かを学ぶこと」，「授業ではスポーツマンシップ（相手・審判・ルールをリスペクトすること）を大切にすること」等，体育で育みたい力についてお考えを聞くことができました。

その後，参加者全員で，車椅子で行えるラジオ体操や，肢体不自由，病弱・身体虚弱の子供が主体的に楽しめる授業実践を集めた「拓桃スポーツ集」に掲載されているスポーツを体験しました。

大人気の**スポーツ吹き矢**

考えながらの一投！
ボッチャ

椅子座位だとバックハンドの方がやり易いと分かった
バドミントン

みんな思わず声が出て，大騒ぎになった
パタコロ

＜参加者アンケートから(抜粋)＞

- 正式なルールをその子の特性に応じて変えていくことの大切さを学びました。ぜひ挑戦したいです。
- 車椅子を使って，自分が実際にやってみて工夫していくことが必要だと感じました。簡単そう，難しそうと思っていても実際にやってみると違うことも多いことが分かりました。
- 実際にスポーツを体験してみて，楽しさを実感できました。自分が担任している児童の指導にどう生かそうかと楽しくこれからの授業を考えることができました。

研修で紹介した**「拓桃スポーツ集」は，宮城県立拓桃支援学校のホームページからダウンロードできます**ので，どうぞご活用ください。

子供たちの「身体を動かしたい」という自然な欲求をかなえ，それを通して学んでいってほしいという願いが貫かれた研修で，参加者同士の一体感も生まれ，大変有意義な研修でした。

教室の窓から

宮城県立拓桃支援学校
教諭　渋谷　明子

小学部１年生の教室は，病棟から一番近く，さらに景色がよく見える３階にあります。大きな窓からは，こども病院の屋上や，宮城広瀬高校の校舎が見えます。ある日，子供たちの話題は，もっともっと遠くに見える緑いっぱいの山に・・・。山の上のほうは，ガスがかかっていて，白くもわっとしていました。それを見た子供たちは，

「あっ！あの山，雲の中にある！」

「すげー！！おれ，あそこに行ってみたい。」

「ぼくも！股関節が治ったら，あの山に登ってみたい。」

「おれも！治ったら，木登りする！おれ，得意なんだ。」

■１年生にとって試練の４月■

ごつごつして固い新品のランドセル，それだけでも本人にとっては違和感があるのに・・・。

「ねえ，先生，いつ終わるの？まだ？」

「チャイムって何？１時間目，２時間目ってなんのこと？」

「疲れた。もう帰りたい。」

帰る先・・・病棟までは自動ドア１枚を通過するだけ。それなのに，どうして帰れないの？

全国各地の１年生と同じように，本校の１年生も，学校生活に慣れるまで，自分とのたたかいのときを過ごしました。無事に乗り越えることができ，これで正真正銘の小学生になりました！

■あさがお　何色の花が咲くのかな■

「やさしく，ふわぁっと土をかぶせてね。」

早く芽が出ますようにと願いを込めて種をまいた数日後，かわいらしい双葉が出てきました。次は，いつ花が咲くのか，何色なのかが気になって仕方がありません。予想を聞いてみたところ，紫，青，ピンク，赤，白・・・と妥当な答えが返ってきましたが，黄緑？黄色？黒！？・・・子供たちの想像は止まりません。本気なのです。よし，調べてみよう！と，子供たちと一緒にインターネットで検索してみたところ，まばろしの黄色いあさがお！？という画像が出てきて，みんなで「すごい，すごい！」と大喜びしました。

■退院おめでとう～お別れする友達へ■

病棟，学校でずっと一緒に過ごしてきた他の学年の友達が退院することになり，お別れのメッセージを考えました。自分で思ったとおり，何でもいいから言ってみてと話したところ，しばらく考えてから，「入院頑張ったね。退院おめでとう。」というメッセージをしぼり出しました。いつもなら，え～分からないという答えが返ってきそうなのに・・・。本当は，いいなあ，うらやましいなという気持ちがあるのでしょうが，それをぐっと胸の中に押し込んで出てきた言葉。しかもそれは，自分自身も入院のつらさが分かるからこそ出てきた言葉。小学１年生・・・見た目は幼いように見えますが，こんなにも深い思いを抱きながら生活しているのだなと思い，胸があつくなりました。